


 研究
報告

滋賀県南部におけるイネカメムシ (カメムシ目：カメムシ科) の生活史

龍谷大学 農学部 ^{とりかい}鳥飼 ^{ゆうき}悠紀・^{ひぐち}樋口 ^{ひろや}博也

はじめに

イネカメムシ *Niphe elongata* (Dallas) (石川ら, 2021) は (図-1), イネに斑点米被害を引き起こすカメムシの1種である。1940年代まではイネの重要害虫であったが(大内, 1953; 小林, 1960; 小川ら, 1960), 1950年代になり水田での生息数は減少傾向を示した。減少した要因として, 戦後の強力な有機合成殺虫剤の使用と水稻栽培の全面早期化による晩生品種の栽培面積の減少があげられる(高井ら, 1975)。餌としてイネの穂に対する依存性が高いイネカメムシにとって(中筋, 1973; SHIMADA and SUGIURA, 2020), 水稻栽培の早期化は, 8月下旬以降に幼虫や羽化した成虫に対して餌不足を引き起こした可能性が高い。しかし, 2000年以降, 茨城県, 千葉県, 三重県, 滋賀県, 山口県等においてイネカメムシの発生が確認され, 予察灯の誘殺数や水田内の個体数が増加傾向にある(保積, 2005; 樋口, 2019; 大田ら, 2020; 本田ら, 2021; 北野・増田, 2022; 安江ら, 2022)。イネカメムシの発生や被害が急激に増加した要因の一つとして, 農業経営体の規模拡大や新規需要米による作期の分散と長期化により, イネカメムシにとって良好な餌が常に野外に存在している状況になっていることがあげられる(石島, 2021)。

イネカメムシは, 籾の基部を吸汁加害し斑点米を生じさせる(竹内ら, 2004; 竹内, 2007)。乳熟期までに加害を受けると不受精籾や発育停止籾が発生し(田中ら, 2022), 出穂期以降株当たり1頭以上で防除を要する可能性が指摘されている(平江, 2021)。したがって, イネカメムシの発生が見られる地域では防除が必須となっている(石島ら, 2020)。効率的に防除を行うためには, その生態を把握する必要があるが, 生態の解明はまだ十分に進んでいないのが現状である。

Life History of the Rice Stink Bug, *Niphe elongata* (Hemiptera: Pentatomidae), in the Southern Part of Shiga Prefecture. By Yuki TORIKAI and Hiroya HIGUCHI

(キーワード: イネカメムシ, 斑点米, 越冬場所, 発生消長, 生活史, 防除)



図-1 イネカメムシの成虫(上図)と幼虫(下図)

本報告では, 越冬場所, 越冬場所からの移出時期, 水田での発生消長について滋賀県大津市で調査し, 得られた知見を基にイネカメムシの生活史についてまとめたので, その概要を紹介する。また, 水田での発生消長に基づいた防除対策についても考察した。

I 越冬場所

イネカメムシは, 成虫で越冬する(小林, 1960; 小川